

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	19	学 校 名	天竜特別支援学校	校 長 名	湯本 健治
------	----	-------	----------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と 課題・
守 る	実 際 的 な 危 機 管 理 体 制 を 構 築 し、様 々 な 緊 急 時 へ の 対 応 力 向 上	・ 緊急時における行動や役割を理解・判断し、行動することができた と 答える教職員 100% ・ 自他の命や健康を大切にする言動が増え、非常災害訓練等では命を守る行動がとれた と 答える 児 童 生 徒 100%	学校評価、生徒指導課アンケート ・ AB100% 児童生徒アンケート ・ 「できた」 100%	A	○状況に応じた初動の動きや役割についての理解が深まり、実際の自然災害時や生徒捜索時などでは組織的対応力が向上した。 ○児童生徒の実態に応じた目的や事前事後学習がより充実し、児童生徒自身が自分事で考え行動することが増えた。 ・ 臨時地震情報発令時の対応等危機管理マニュアルの見直し。 ・ 様々な場面を想定した訓練や関係機関と連携した学習の充実。
	多 様 性 を 認 め、自他 を 尊 重 し 合 い 高 い 人 権 意 識 を 持 っ た 児 童 生 徒 と 教 員	・ 学校全体の人権意識が高まった と 答える教職員 100% ・ 児童生徒間・教職員間で挨拶や感謝等の言動が増えた と 答える教職員 100% ・ 児童生徒の人間関係や学習上・生活上の困り感の把握に努め、早期に対応した と 答える教職員 100% ・ 自立活動や道德教育等の充実を図れた と 答える教職員 100%	生徒指導課アンケート ・ 人権 AB97.7% 児童生徒アンケート ・ 挨拶「できた」 91% 学校評価 ・ 挨拶 98% ・ 早期対応 100% ・ 道德 AB96% ・ 自立活動 98%	A	○人権研修、外部講師による授業、日常的な啓発により互いを大切にした言動をとる風土ができてつつある。 ○体罰、セクハラアンケート（児童生徒、保護者対象）不適切な言動 なし ・ アサーティブなコミュニケーション力のさらなる向上。 ○アンケートや日常的な関わりの中での早期発見をし、学部等組織的に対応することが増えている。 ・ 友達の良さに気付く高等部生徒 100%の半面、自分の良さに気付く生徒は 79%であり、自己肯定感を高める方策の検討。 ・ 道德教育の充実をさらに図る。
育 む	○ J T に よ る 学 校 力 の 向 上 を 高 め る	・ 特別支援教育の基礎・基本の理解を深め、自ら専門性の向上に繋がる取組を実施した教職員 100%	学校評価 AB98%	B	○教育相談や移行支援の適切なやり方等については○ J T による効果が高かった。 ・ ミドルリーダー育成への組織的な方策を立て、実践する。

	I C T 機器等を効果的に活用した授業実践を展開する	- 授業の中で、ICT 機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の興味関心や理解が深まったと評価する教員 80% - ICT を活用した復帰支援やリモート学習が増えた答える教職員 100%	学校評価 - 学習の深まり 100% - ICT 活用した支援 86%	A	○デジタル教科書や電子黒板の活用は視覚的な補助により、興味関心や授業理解が深まった。また、実態に応じた学習にも繋がった。 ・電子黒板等 ICT 機器の充実。 ○復帰支援登校前の原籍校とのオンライン面談、リモート学習は児童生徒の心理的安心感構築に繋がった。(小中) ○YouTube Live やテレロボ Kubi を活用し学校と病院を繋いだ遠隔授業は、より主体的に学習に参加する機会となった。 ・1・2病棟での遠隔授業実践
	病弱教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な実践を行う。	- ICT を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことができた教職員 100% ・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教職員 100%	学校評価 - ICT 活用 AB100% - 授業改善 AB100% ・実践 AB98%	B	○相互授業参観や実践紹介等を通じて、ICT 機器を積極的に活用する職員が増えた。 ・目的にせまる ICT 活用の授業改善の更なる推進。 ○研修や事例検討会等が専門性向上に繋がり、実態に応じた目標設定や指導実践に生かすことができた。 ・自立活動の目標をより意識して日常生活での指導や教科指導に繋げていく。
つなげる	みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実させる。	- みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員 100% ・ホームページの計画的な運用及び授業や行事ごとの更新 100%	学校評価 - 人材活用 AB100% - HP の更新 75%	A	○地域や外部資源を活用した学習や体験学習により、コミュニケーション力や知識経験等学習が深まることが多かった。 ○高等部生徒がボランティアとして地域で活動する機会を設けたことにより、本校の理解啓発や自己有用感を得る意味のあるものとなった。 ○ホームページがリニューアルした。全職員が研修を受け、ホームページの作成方法を習得した。 ・タイムリーなホームページの更新。

様式第3号

	個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立する。	・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし、連携できた教職員 100% ・児童生徒がなりたい自分をイメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員 100%	学校評価 ・連携 98% ・授業 92% 保護者アンケート ・連携 88% 病院アンケート ・連携 87.5% (5 病) 90% (1, 2b 病)	B	○個別の教育支援計画を活用し、支援会議で支援の引継ぎや助言を行うことができた。また、保護者や病院との情報共有を図りながら連携した。 ・原籍校（関係機関）と一貫した支援の充実。 ○個別面談や進路指導の積み重ねの中で、児童生徒が主体的に進路やなりたい自分について考えるようになってきた。 ・キャリア教育の考え方を押さえた上で、キャリアパスポートの有効活用方法の検討を行う。
チーム	「チーム天特」による全員参加の業務改善	・自分の設定した退勤時間を目指し、業務を計画調整した教職員 100%	学校評価より AB97%	A	○毎日の退勤時刻の可視化等により中期、短期、一日単位での業務遂行計画を考え、調整する教職員が増えた。
		・担当業務や行事の見直しを行ったり、改善したりした教職員 80% ・予算、施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員 100%	学校評価より ・業務改善 AB91% ・連携 AB100%	A	○学部主事を中心に部内職員の業務の把握、分担の見直し改善を行い、一部職員への負担が集中しないようにできた。 ○業務の見直しや改善実践例を紹介し、参考に取り組む職員もみられた。 ○事務と連携しながら進め、教育活動の充実を図れた。 ・教員が予算執行等の事務処理についての考え方や流れ等をより正しく理解する必要がある。
		・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員 100%	学校評価より AB96%	A	○資料の事前配布、時間内会議運営など定着してきている。また、会議回数についても見直し、改善した。